

見学に訪れた稲生沢中学校生徒に質問されました。 茅葺の「茅」って何ですか？

5月16日に稲生沢中学校1年生が総合学習のため、工事中の寓寄処に来てくれました。当日は、教育委員会や現場の担当者から寓寄処の説明を受け、生徒たちからも質問をしてもらいました。そのいくつかを紹介します。



上写真：葺き替え中の屋根を見学する様子。
下写真：吹き替え中の茅のアップ写真。

実際持ってみると
軽いなあ～



伝統の技法が見られる
良い機会だよ！



Q1 「茅葺屋根」の「茅」って植物の名前ですか？

A1 「茅」は屋根に葺かれている植物の総称で、十五夜の時に見かけるススキや、水辺に生えている葦(よし)が多いですよ。

Q2 雨漏りすることはありますか？

A2 屋根に敷く茅の厚さは45cmもあるため、雨水は屋根に染み込む前に、茅に沿って外へ流れ落ちるから雨漏りはしません。昔は家の中に囲炉裏やかまどがあったため、その火や煙で茅が乾かされたり、虫が殺されたりしたため、茅屋根は長持ちしたけど、現在は囲炉裏やかまどを使用していないため、茅が長持ちしなくなっています。

Q3 茅が綺麗に揃えて刈り込んでありますが、定規等を使っているのですか？

A3 定規やメジャーは持っていますが、刈り込みは職人の勘です。これこそ職人技ですよ。

職人さんから生徒たちへの印象

最近の子どもたちはゲームばかりで、昔のことなど興味が無いと思っていたけれど、みんな自分から質問できて素晴らしいですね。

関係者一言コメント

下田市教育委員会(吉田松陰寓寄処管理担当)

幕末開港160周年の年に、約23年ぶりに茅屋根の葺き替えを行うことができました。茅バサミの跡も新鮮で、真新しい茅屋根となった吉田松陰寓寄処を見学するまたとない機会です。多くの方に来訪をお待ちしております。

近隣住民

足場を組むための土地を業者さんに使っていただき、また、工事中は洗濯物に茅が付くかもしれないとの説明を受けましたが、寓寄処を綺麗にさせていただいたための工事ですので構いませんよ、と伝えさせていただきました。工事中も外から見学させてもらい、地域のシンボルである寓寄処が日に日に蘇るのが楽しみでした。

吉田松陰ゆかりの 下田まち遺産を紹介

1 弁天島

安政元年(1854)吉田松陰と金子重輔が弁天島の祠に身を隠し、国禁を破り黒船を目指して小舟を漕ぎ出した場所です。松陰らは、きっとこの場所から黒船を見て、胸を高ぶらせたことでしょう。また、島全体が白色凝灰質砂岩でできていて、県から天然記念物「偽層理」として指定され、その点でも後世に残したいものとなっています。

3 吉田松陰上陸の碑

安政元年(1854)3月18日に下田を訪れた吉田松陰は、3月25日に踏海を試みますが、悪天候により断念。3月27日深夜に再度挑み、密航を懇願しましたが聞き入れられず、福浦の海岸までペリー艦隊のボートで送り返されました。日本の存亡を真剣に考える情熱と勇気ある姿に胸を打たれます。

2 吉田松陰先生像

弁天島の吉田松陰像を思い浮かべる方も多いでしょうが、柿崎の三島神社境内にはそれよりもはるかに大きな吉田松陰像があります。こちらは賀茂郡教育会が昭和17年(1942)に建立しました。海の彼方を凝視する厳しい表情からは、吉田松陰の決意が想像されます。

4 吉田松陰拘禁の跡

ペリー艦隊に便乗しての海外渡航を目指した吉田松陰は、その願いを断られた後、渾く柿崎村の名主平右衛門に自首し、囚われの身となりました。その後、下田に移された吉田松陰らは宝光院長命寺(のちに廃寺)で取り調べを受け、平滑の獄舎に移されました。その長命寺跡地がこの場所です。

5 玉泉寺

嘉永7年(1854)3月、日米和親条約が締結されると下田は即時開港。5月、下田条約により玉泉寺は米人休息所となりました。安政3年(1856)7月、米総領事としてハリスが来日し、8月、日本初の領事館が開設されて境内には星条旗が翻りました。また、境内には事故や病気で亡くなった米将兵の墓5基と露将兵の墓3基がある他、吉田松陰が柿崎村で囚われの身となった時に使用した硯等が展示されています。

